

# 大学生の学習モチベーションにスポーツ経験が与える影響分析 Analysis of the Impact of Sports Experience on the Learning Motivation of University Students

1741075 田中 康喜

Kouki TANAKA

指導教員 秋葉 知昭

In this study, I executed survey questionnaire based ARCS model of learning motivation model. So, I analyzed results by the multivariate statistics. As a result, sports experience has some influence on learning motivation, those who have dreams for the future and are learning to approach their goals are more motivated

## 1. 緒言

モチベーションとは「目標のある行動」と解釈される。言い換えると行き先の決まったやる気・意欲となる。行動においては精神面が大きく左右するだけにモチベーションのある行動は成果が出やすくなるものである[1]。

私は野球というスポーツの向上を目的にモチベーションを高く持ち取り組んできた。そこで本研究はスポーツ経験者とあまりスポーツに取り組んでない非経験者のスポーツ経験が学習モチベーションに与える影響を調査しようと思ったのである。

青山学院大学教育分科会の研究[2]によると子どもはスポーツ活動で培われた非認知能力は認知能力に影響を与え、学力を向上させると解釈している。はたして大学生の学習モチベーションにスポーツ経験は影響するのだろうか。

本研究では経営情報科学科の全学年の学生を対象に、学習へのモチベーションに関するアンケート調査を行った。アンケート調査票作成の際に使用したモチベーションの分類方法には、ケラーの学習意欲向上モデルの ARCS モデルを使用した。

## 2. モチベーション概要と分析方法

### 2.1 モチベーションについて[3]

モチベーションとは、「元気」とか「やる気」という心理現象を実現させ、活気に満ちた行動へと駆り立てるものである。

組織心理学者の田尾雅夫氏によると、「モチベーションとは、何か目標とするものがあって、それに向けて、行動を立ち上げ、方向づけ、支える力である」[4]というものがモチベーションの定義だとしている。

### 2.2 ケラーの ARCS モデル[5][6]

本研究では学生のモチベーションの判別にケラ

一の ARCS モデルを用いた。ARCS (アークス) モデルとは、教育心理学者のジョン・ケラーが 1983 年に提唱した学習意欲向上モデルである。このモデルの特徴は、学習意欲を高める方法を 4 つの側面に分けて整理している点にある。その側面を「注意喚起 (Attention)」「関連性 (Relevance)」「自信 (Confidence)」「満足感 (Satisfaction)」である。なお ARCS モデルという名称は上記の 4 つの要素の頭文字に由来するものである。

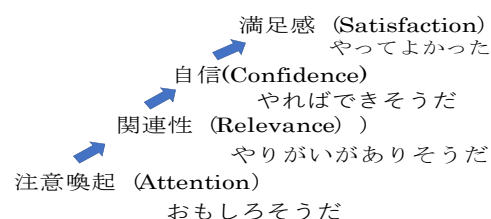


図1 ARCS モデル

## 2.3 分析方法

アンケート調査の分析方法には、多変量解析の手法である主成分分析とグラフィカルモデリング (以下 GM) を用いた。GM では、各質問の選択肢毎に層別を行った回答データを用いて分析を行い、6 つの学習動機間の偏相関係数を用いて作成した相関図に違いがみられるかを検証した。

主成分分析では、分析結果を質問毎に層別し、各主成分を軸とした散布図で、選択肢毎に違いがみられるかを検証した。

## 3. アンケート調査概要

本研究では経営情報科学科 1 年生から 4 年生を対象にアンケート調査を実施した。実施日は令和 2 年度 9 月 23 日から 11 月 1 日にし、Google フォームを使ったアンケートへのリンクを各担任の教員に行ってもらい実施をした。アンケート票回収総数は 1 年生 35、2 年生 37、3 年生 38、4 年生 40 の合計 150 票であった。

#### 4. アンケート調査の実施

本研究で作成したアンケートは匿名式とし、大きく分けて2種類の質問、合計30問の質問を作成した。

学習動機の評価のための質問作成には、「外国語科目」、「専門科目」に対する考え方をARCSモデルを基にそれぞれ「注意」、「関連性」、「自信」、「満足感」の4つに分類して、合計30問作成した。これらの設問はリッカート尺度を用い、「5.当てはまる」、「4.やや当てはまる」、「3.どちらでもない」、「2.あまり当てはまらない」、「1.当てはまらない」の5段階で評価した。層別に分析するためのデータとして11問の質問を用意した。

#### 5. 結果と考察

GMで分析したグラフにおいて選択肢別に違いがみられた質問のうち2つを図2、図3、図4、図5に示す。

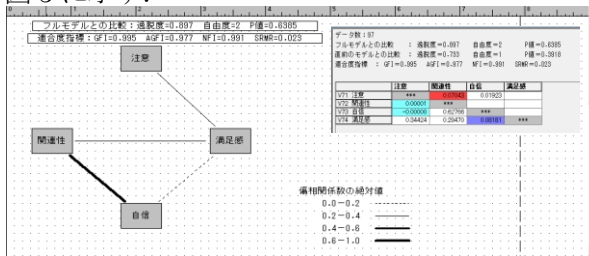


図2「将来の夢がある人」のGM結果

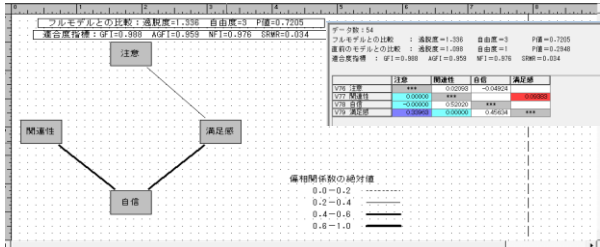


図3「将来の夢がない人」のGM結果

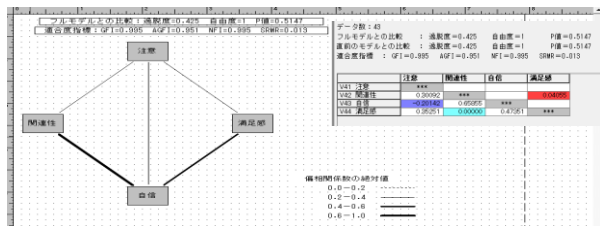


図4「部活動をしている人」のGM結果

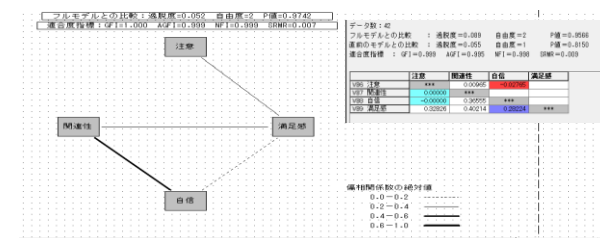


図5「部活動をしていない人」のGM結果

この結果から、部活動に参加している人は自信（やればできる）がしていない人に比べて濃く結びつきが多い。つまり部活している人は自分自身に対して自信が高いのだと考え、将来の夢がある人と部活をしていない人、将来の夢がない人と部活をしている人のグラフが似ている結果となった。

#### 6. 結言

主成分分析ではスポーツ経験者の学習モチベーションは高いと推測できたが、GMではスポーツ経験者のグラフと将来の夢がない人のグラフが似ている結果となった。

以上のような結果が出たことから、学習モチベーションにスポーツ経験が与える影響は多少あるが、将来の夢を持ち目標に近づくために学習している者の方がモチベーションは高い。スポーツ経験者が将来の夢のない人とGMで同じグラフになったため、スポーツ経験者が将来の夢があるとは限らない。興味、やりがいを感じ将来のために行動できる者が学習モチベーションは高いと推測する。スポーツ経験者の中でも文武両道の人はいるし、そうでない学生も多いだろう。しかし興味のあるものだけやっても人生良いことはないと思う。嫌なことや苦手なことをいかに克服し改善していくことが大切ではないかと考える。

#### 謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご回答いただいた経営情報科学科1年生から4年生、アンケート調査実施時に御協力頂いた経営情報科学科各学年のガイダンス担当の先生方、大学職員の方々、私の友人に厚く御礼申し上げます。

#### 文献

- [1] 「モチベーション」使い方や意味、例文や類義語を徹底解析 (2020/01/22) (<https://www.tutitatu.com/>)
- [2] 安井健吾：スポーツ活動は学力を向上させるのか、青山学院大学教育分科会論文 (2018)
- [3] 池田光：図解きほんからわかる「モチベーション」理論、イースト・プレス(2008),
- [4] 田尾雅夫：モチベーション入門、日経文庫(1993)
- [5] ジョン・M・ケラー：学習意欲をデザインする：ARCSモデルによるインストラクションデザイン。(2010)
- [6] 鈴木 雄明：ARCS 動機付けモデルに基づいた授業評価と改善方略提案システムの設計。熊本大学大学院論文(2012)